

【夏のペンションでひと夏の共同性活】

※ () 内がト書き、「」内が、台詞。
耳元で囁いてほしい台詞は赤字で表記。
収録時の位置は青字で表記しています。

//トラック1 プロローグ

(親戚の経営するペンションにやってきた主人公)

SE：ドアベルのカランコロン音

由乃「いらっしゃいませ……あつ、ごめん。お客さんかと思った……ふふ、待ってたよ？」

(近寄ってくる由乃)

由乃「この時期になるとこんな山奥のペンションも結構利用する人が多いから、
一人でお客さんのお世話するのが大変だったの。
でも、今年はすごく楽になりそうで嬉しいなあ……♪」

(至近距離で)

由乃「本当に、バイトに来てくれてありがとね。お兄ちゃん」

由乃「じゃあ、お兄ちゃんが泊まる部屋に向かいながら、お仕事の内容とか説明してくね。
もし分からないことがあったら、遠慮なく何でも質問して……って、え？
もう聞きたいことがあるの？ わあ、すごいヤル気だね……！ いいよ、教えて？」

由乃「……え？ 私の、名前……？ 初対面って……あ、あ……そ、そっか……そうだね……
(右耳側小声ささやき) 覚えてないんだ……」

由乃「私は……由乃だよ。うん……これからよろしくね……」

(ここから明確にテンションが下がった感じで)

由乃「質問は、それだけ？ わかった……じゃあ、中を案内するからついて来て」

SE：木の床を歩く音

由乃「うちのペンションでやることは基本的に食事やお風呂の準備、あとルームメイクかな。

42 あなたは普段料理を作ったりとか……ふーん、してないんだ……」
43
44 由乃「じゃあ料理は私がやるから、お風呂の準備とルームメイクをやって……。
45 それ以外は、お客さんから何か頼まれたら対応してね」
46
47 SE：ドアを開ける音
48
49 (主人公の左側に並んで立つ)
50
51 (左耳側)
52 由乃「……はい、ここがあなたの部屋だよ。
53 毎朝洗濯はするから、シーツと書き替えとかあったら持ってきて」
54
55 由乃「じゃあ、私は戻るから……準備ができたらロビーに来てね。
56 また後で……バイバイ」
57
58 (主人公が由乃の手を掴んで引き留める)
59
60 (正面位置に戻る)
61 由乃「きゃっ……！？ え、な、なに……？
62 いきなりそんな風に腕掴まれたら……び、びっくり、したんだけど……」
63
64 由乃「ええっ……？ 別に、怒ってはないけど……なんで？
65 顔に出てるって、うそ……そんなに分かりやすいの、私って……」
66
67 由乃「う、うう……だって、お兄ちゃんてば……私のこと覚えてないんだもん。
68 私は……お兄ちゃんこと、ずっと覚えてたのに……
69 一人だけ舞い上がってて、悲しくなっちゃって……」
70
71 由乃「うぐっ……そんなに記憶にないの……！？ ひ、ひどい……
72 一緒にお風呂に入ったり、同じ布団で寝たりしたのに……」
73
74 由乃「そ、そう……！ あれが、私だよ……！
75 ようやく思い出してくれたんだ……よかったあ……」
76
77 由乃「でも……そうだよ。あの頃と比べて、印象すごく変わっちゃったよね、私……
78 地味だし、暗いし、口下手だって、自分でも思うし……あはは……」
79
80 由乃「ふえっ……！？ お、大人っぽって……私が……？
81 いや、あのっ……いいんだよ、無理して気を遣わなくて……」
82

83 由乃「え、え……いや、お兄ちゃんが嘘ついてるとは、思わ、ないけど……
84 でも……そんな風に言われたの、初めてだから……お世辞だと思って……」
85
86 由乃「あ、ああっ……も、もう分かったから……！　そんなに褒めないで大丈夫だから……！
87 ううう……お兄ちゃんのそういうちょっと強引なところ、変わってないね……」
88
89 由乃「ふ、ふふっ……でもまさか、お兄ちゃんに『お姉さんみたい』なんて言われるなんて、
90 思ってもみなかったなあ……私の方が年下なのに……ふふふっ」
91
92 由乃「それを言うなら、お兄ちゃんだって大人っぽくなったよ？
93 すごく身体も大きくなったし、(小声ささやき) が……カッコ、いいし……」
94
95 由乃「な、何でもないよ、今のはただの独り言……！　うん、気にしないで……！」
96
97 由乃「と、とにかくね、お兄ちゃんとまた会えて、本当に嬉しいの……！」
98
99 由乃「昔みたいに、いっぱい一緒に遊んだりお話したりしようね？　約束だよ？」
100
101 由乃「あれ……お兄ちゃん、なんで小指出してくれないの？
102 え、うそ……指きりってそんなにしないものなの……！？
103 うう……なんか、当たり前みたいな顔してたの、すごく恥ずかしい……」
104
105 (小指を引っかける主人公)
106
107 (至近距離で)
108 由乃「あっ……本当に、お兄ちゃんは優しいなあ……えへへ……
109 指切りげんまん嘘ついたら針千本のます……指切った」
110
111 (位置戻る)
112 由乃「それじゃあ、もう一度あらためて……ようこそ、うちのペンションへ。
113 短い間だけど、よろしくね。お兄ちゃん♪」
114
115
116
117
118
119
120
121
122
123
124
125
126

127
128
129
130
131
132
133
134
135
136
137
138
139
140
141
142
143
144
145
146

147 //トラック2 風呂に入る

148

149 (調理場で食器を洗う由乃と主人公。由乃は右側に並んで立っている)

150

151 SE : 食器を洗う音

152 SE : 蛇口を閉める音

153

154 (右耳側)

155 由乃「お皿洗い、手伝ってくれてありがとね。

156 お兄ちゃんのおかげであつという間に片付いちゃったよ」

157

158 由乃「.....あの、今日一日働いてみて、どうだったかな？

159 接客のお仕事だから、いろいろ大変だったと思うんだけど.....」

160

161 由乃「あ、よ、よかった.....お兄ちゃんが帰りたくなってないか、心配だったから.....

162 えへへ、安心したよ.....♪」

163

164 由乃「私も今日はすごく楽しかったよ。

165 お兄ちゃんの都会での暮らしぶりとか、面白い話たくさん聞けたし」

166

167 由乃「まだしばらくは、こんな楽しい日が続くんだね.....嬉しいなあ。

168 お兄ちゃんが帰っちゃう前に、いっぱい思い出作りたいな.....ふふふっ♪」

169

170 SE : 食器をしまう音

171

172 由乃「さてと……これで今日のお仕事はおしまいだよ。お疲れさまでした♪」
173
174 由乃「それじゃあ、明日も早いしお風呂に入って寝る準備をしようか。
175 一緒に行こう？」
176
177 SE：歩いていく音
178
179 SE：引き戸を開ける音
180
181 (お風呂場へ入る由乃と主人公)
182
183 (正面)
184 由乃「ん、しょっと……」
185
186 SE：服を脱ぐ音
187
188 由乃「え……私、何か変なことしてるかな？
189 さすがに都会でも、服を着たままお風呂には入らない……よね……？」
190
191 由乃「あ、ああ……そういうことが……！ ごめんね、説明してなくて。
192 うちのお風呂、追い炊きがないからお湯がすぐぬるくなっちゃうの。
193 だから、一緒に入った方がいいなって思ったんだけど……だめだった？」
194
195 由乃「それと……お兄ちゃんが来るって聞いた時から、すごく楽しみだったの。
196 昔のように、一緒にお風呂に入れるって。だ、だから、その……どうかな……？」
197
198 由乃「えへへ、やったあ……♪ じゃあ、先に入ってるね！」
199
200 SE：浴室ドアの開閉音
201
202 (由乃が先にお風呂場に入る。主人公は少し間を開けて脱ぎだす)
203
204 SE：服を脱ぐ音
205 SE：浴室ドアの開ける音
206
207 由乃「ふふっ、どうぞどうぞ。遠慮しないで入って？」
208
209 SE：浴室ドアの閉める音
210
211 (正面距離近め)
212 由乃「どうかな……うちのお風呂、昔から変わってないでしょ？
213 子供の頃はすごく広く感じてたけど、成長すると二人はすごく狭く感じるなあ。

214 こんなに身体がくっつきそうになるとは、私も思わなかったかな……あはは」
215
216 由乃「え……もう、お兄ちゃんったら、何言ってるの？
217 いくら何でもお父さんとは一緒に入らないよ。
218 もう子供じゃないんだし、恥ずかしいもん……」
219
220 由乃「うん……？ お兄ちゃんとは全然恥ずかしくないよ……？
221 だって、ここに泊りに来てくれた時はずっと一緒だったでしょ？」
222
223 由乃「あ……もしかして、お兄ちゃんが恥ずかしいとか……？
224 でも、私から見たら、恥ずかしがる所とかないと思うけどなあ……」
225
226 (左耳側・至近距離)
227 由乃「お腹も腕もがっしりしてるし、背中の広さとかいかにも男らしいって感じだし……
228 全然自信を持って大丈夫だと思うよ。うん……」
229
230 由乃「というより、それを言ったら私なんて、油断するといろんな所にお肉がついて
231 すぐプニプニになっちゃうから……
232 お兄ちゃんの体つきは、正直言うと、羨ましいなって思うかな……！」
233
234 由乃「って、ごめんなさいっ。私、変な悩み言っちゃって……！
235 今の話は、忘れて……！」
236
237 由乃「と、とりあえず、早く身体を洗ってお風呂に入ろう……！
238 いくら夏だからって、裸のままだと風邪引いちゃうよ……！」
239
240 由乃「あ……でもこんなに狭かったら、二人一緒に洗うのは無理かな……？
241 それこそぴったり身体をくっつければ、いけそうかもしれないけど……うーん……」
242
243 由乃「ああ、そうだ……！ 交互に洗いつこすれば、二人いっぺんに温まれるよね……！
244 うん、それがいいかも……！」
245
246 由乃「というわけでお兄ちゃん、どっちが先に身体を洗ってもらえるかジャンケンしよう？
247 いくよ……最初はグー、ジャンケンポンっ！」
248
249 由乃「えへへ……私が先だね♪ じゃあ、お願いします……♪
250 椅子に座った方がやりやすいよね……？」
251
252 SE：風呂椅子に座る音
253
254 SE：ボディークリームを出す音

255
256 (正面に戻る)
257 由乃「ふぁっ……んんっ……人に洗ってもらうのって、なんかすごく気分がいいね……
258 お兄ちゃんの手、優しくて気持ちいい……んぁ……」
259
260 由乃「んうっ……あ、そこ……首筋のところ、しっかり擦って、ほしいかも……
261 結構汗、かいちゃってたから……んふ……んっ……」
262
263 (ボディーソープの泡の音と、由乃の吐息15秒)
264
265 由乃「いいよ……お兄ちゃん、すごく上手……やっぱり、男の人の手って、大きいね……
266 あっという間に背中が泡々になったの、分かるよ……」
267
268 由乃「じゃあ、次は腕と前側もお願いできるかな……」
269
270 (ボディーソープの泡の音と、由乃の吐息15秒)
271
272 由乃「んっ……くふっ……！ ご、ごめんなさい……あひっ……そこ、弱くて……
273 くすぐった、ぁっ……あははっ！」
274
275 由乃「なんかね……おっぱい、大きくなるたびに胸の周りがどんどん敏感になってて……
276 ひぁ、ぷくっ……でも、気にしないで……はぁ……続けて……」
277
278 由乃「左右のおっぱいの谷間とか、膨らみの下側とか……汗、溜まりやすいから……
279 重点的に、ゴシゴシしてくれると、嬉しいな……は、あふっ……」
280
281 (ボディーソープの泡の音と、由乃の吐息15秒)
282
283 由乃「んは……ぁっ……はぁぁ……ふふっ、ありがとう、お兄ちゃん」
284
285 由乃「後は、脚とお股のところだけど……下半身は、その……汚くて嫌だと思うから……
286 自分で洗うね？」
287
288 (ボディーソープの泡の音と、由乃の吐息30秒)
289
290 SE：シャワーの音
291
292 由乃「ふぁぁ……気持ちよかった……
293 じゃあ、次はお兄ちゃんの番だね。場所交代しようか？」
294
295 (椅子から立ち上がって主人公の背後に移動する由乃)
296

297 SE：風呂椅子に座る音
298
299 (後ろ側・距離近め)
300 由乃「んふ……お兄ちゃんも痒かったりくすぐったかったりしたら、教えてね……？」
301
302 SE：ボディーソープを出す音
303
304 (背中から洗う)
305
306 由乃「それじゃ、行くよ……ゴシ、ゴシ……ゴシゴシ、ゴシ……
307 ど、どうかな……？ 気持ちいい……？ ふふ、そっか……よかった……♪」
308
309 由乃「ゴシゴシゴシゴシ……本当に、お兄ちゃんって、大きくなったよね……」
310
311 由乃「昔は私とほとんど変わらなかったのに……
312 今じゃ背中もこんなに広くて、立派な男の人だもん……
313 (小声ささやき) なんか、別の人みたいに感じて……少しドキッとしちゃうかも……」
314
315 (首元へ移動)
316
317 (右耳側・激近)
318 由乃「ゴシゴシゴシゴシゴシゴシ……あ、ごめんね、くすぐったかった？
319 ……見た目は頑丈そうでも、やっぱり首元はみんな弱いんだね。
320 ふふっ、くすぐりあいつこの時に役に立ちそうだから、覚えておこっと……♪」
321
322 (後ろ側に戻る)
323 由乃「んう……ふ……んっ……んんっ……背中は、大体これでいいかな……
324 じゃあ、次は前側だね。
325 うーん……後ろから手を回して届くかなあ……」
326
327 SE：ボディーソープを出す音
328
329 由乃「お兄ちゃん、ちょっと脇を軽く開いてくれる？ んぐ、んぐぐっ……
330 うん、これならなんとか手が届きそうかな……
331 ちょっと身体がくっついちゃうかもしれないけど……許してね」
332
333 SE：ボディーソープの泡の音
334
335 (後ろ側・激近)
336 由乃「ふうう……ゴシ、ゴシ……ゴシゴシゴシゴシゴシ……んあっ……
337 あはは、やっぱりおっぱい当たっちゃうなあ……んんう……

338 ゴシゴシゴシゴシゴシゴシ.....正直、暑苦しいよね.....？」
339
340 由乃「私もね、いつも邪魔だなんて思うんだ.....蒸れるし、肩凝るし.....
341 ゴシ、ゴシ、ゴシ.....どうせ成長するならこういう見た目じゃなく、
342 性格とかの方が変わってほしいなって思ってるんだけど.....」
343
344 由乃「えっ.....？ 女の子らしいって.....そ、そう、かな.....お、お兄ちゃんは、その.....
345 おっぱいが大きい女の子の方が、タイプなの.....？ へ、へええ~.....
346 (小声ささやき) そっか.....そうなんだ.....ゴシゴシゴシゴシ.....」
347
348 (左耳側・激近)
349 由乃「でも、お兄ちゃんがよくても.....私はちょっと、洗いにくいかな.....んんっ.....
350 (小声ささやき) これ以上、抱きつくみたいにするのは、ちょっと.....
351 は、恥ずかしいし.....」
352
353 (後ろ側に戻る)
354 由乃「そ、そうだ.....お兄ちゃん、こっち向いてくれない？
355 その方が隅々まで洗いやすいし.....ねっ？
356 うん、その方がいいと思う.....！ ほら、くるんってして.....？」
357
358 (主人公が椅子の上で180度向き直る)
359
360 (正面・至近距離)
361 由乃「ありがとう、これなら洗いやすいよ.....って、えっ.....？
362 え.....あ、あの.....お兄ちゃん。そのモッコリしてるの、なに.....？
363 なんか、ずっとヒクヒク動いてるけど.....もしかして、怪我してるの.....！？」
364
365 由乃「あ、あああ.....！ そ、そっか.....これ、おちんちん.....だったんだ.....
366 うあ、あ.....ご、ごめん、私そういうの鈍くて、気付かなくて.....！」
367
368 由乃「え.....ええ.....でも、えっと.....おちんちんが、こんな風に大きくなるってことは.....
369 お兄ちゃん、その.....興奮、してたの.....？」
370
371 由乃「そ.....そう、だよな.....お兄ちゃんも、男の人、だもんね.....は、あ.....
372 しかも、おっぱい好きって言ってたし.....それで、興奮しちゃったんだよね.....？」
373
374 由乃「じゃあ、もしかして今も.....？ う、あああ.....っ！
375 お兄ちゃんの、そんな顔.....初めて、見た.....
376 (小声ささやき) あ.....う.....やあ、恥ずかし.....んううっ.....」
377

378 由乃「い、いや……私より、お兄ちゃんの方が恥ずかしいよね……ごめんなさい……
379 　　いつまでも子供の時のように接してたらだめだな……」
380
381 由乃「うん……これからは、気をつける……本当に、ごめんなさい……」
382
383 由乃「だ、だから……その……お兄ちゃんの大きくなったおちんちん、
384 　　私が責任取って、何とかしてあげたい……
385 　　恥ずかしい思いをさせちゃった分の、お詫びをしたいの……！」
386
387 由乃「ただ、私……そういうエッチなこと、一回もしたことなくて……
388 　　だから、お兄ちゃんが教えてくれたら……言うとおりにするから。
389 　　それで、許してくれる……？」
390
391 由乃「えへ……ありがとう……それじゃあ……うん……わかった。
392 　　これ、握ったらいいんだね……？」
393
394 (主人公の股間に顔をうずめる体制に)
395
396 (正面・至近距離)
397 由乃「う……はあ……っ。
398 　　じゃ、じゃあ……さ、触るよ…… (小声) う、わっ……あ、あつい……！」
399
400 由乃「すごい、手にドクドク、伝わってくる……
401 　　お兄ちゃん、こんなにドキドキしてるんだ……」
402
403 由乃「このまま、おちんちんぎゅってしたまま、上下にゴシゴシすればいいんだよね……
404 　　ゴ、シ……ゴシ、ゴ……シゴ、シゴ……
405 　　ええっ、もっと強く、早くって……こ、こう……？」
406
407 由乃「ゴシ、ゴシゴシゴシゴシ……あ、え、なにこれ……？
408 　　なんか、ヌルヌルの、出てきたよお兄ちゃん……
409 　　んう……ふあ、なんか、これ……すごいにおい、する……ふ、う……」
410
411 由乃「でも、このヌルヌルのおかげで……シコシコシコ……すごく早く、擦れちゃう……
412 　　シコシコシコシコシコシコシコ……ひゃっ！？
413 　　お、お兄ちゃん……！？　び、びくってしたけど、痛かった……！？」
414
415 由乃「えっ……？　今のが気持ちよくなってる証拠なんだ……知らなかった……
416 　　だったら、お兄ちゃんの身体、もっとビクンビクンさせればいいってこと……？
417 　　なるほど……わかった……」
418

419 由乃「シコ、シコシコシコ……うあっ……ここ……
420 このピンク色のところが気持ちいいんだ……？
421 指が当たるたびに手にドクドクが伝わるから、分かりやすいかも……
422 シコシコシコシコ……」
423
424 由乃「あ、あと……先っぽの割れ目のところも反応もいいね……
425 じゃあ、親指のお腹でスリスリってしたら……うわああ……
426 そんな切なそうな声が漏れちゃうくらい、気持ちいいんだ……」
427
428 (クチュ音と吐息10秒)
429
430 由乃「クチュ、クチュ……うあ……ああ……クチュクチュ……んはああ……
431 すっごい、ヌルヌルの匂い、強くなってる……んん……
432 嗅いでるだけで、身体……あつく、なる……んううっ」
433
434 由乃「え……えっ！？ な、舐めるって……お、おちんちんを……！？
435 う、あ……えと、それは……ちょっと……ううう……」
436
437 由乃「で、でも……お兄ちゃんへの、お詫びでやってるんだし……う、ぐ……
438 や、やって、みる……んあ、あ……ぺろ……」
439
440 由乃「ふ、んんっ……！ うあ、なに、この味……
441 こんな、独特なの……今まで味わったことない……」
442
443 由乃「あ……はあ……んんっ……れろ……は、あ……ああ……れろ、れろお……
444 なんで……？ このヌルヌル……変な味なのに……美味しい……
445 んう……ちゅ、ちゅりゅ……んず、ぢゅる……」
446
447 由乃「しかも、お兄ちゃんの匂い……くちの中、広がって……はああっ。
448 んぶ……ちゅ、ちゅば……あふ、ん、ふっ……れるれるれるれる……
449 とまら、ないよお……ちゅぶ、ちゅむ……ずずずっ！」
450
451 由乃「ふう……ん、ぢゅる……ぢゅば、ぢゅぶ、ぢゅりゅ……
452 ああ、これじゃ、だめ……ちゃんとお兄ちゃんのこと、よくしないと……
453 はふ、う……んりゅ、れう、れりゅりゅ……おわびに、ならない……」
454
455 由乃「は、あ……そおだ……んしょ……んう……お兄ちゃん、おっぱい好きだもんね……？
456 だったら、おちんちんをおっぱいで挟んだら……喜んでくれるかな……？」
457
458 由乃「ひあっ……すごい、ビクビク……」

459 あは.....ほんとにおっぱい好きだね、お兄ちゃん.....♡
460 いいよ.....私のおっぱいで、気持ちよくなって.....」
461
462 由乃「は、ふ.....んっ.....ずり、ずりっ.....ん、んっ.....んんんっ.....
463 は、あっ.....おっぱいの間から、おちんちん、突き出して.....
464 エッチすぎるよ.....んんっ」
465
466 由乃「むに、むに.....ん、ぎゅっ.....ぐにぐにぐに.....ひゃ、んっ.....！
467 ああ、乳首.....ふうっ、おちんちんに擦れて.....んひっ.....また私、
468 気持ちよく、なって.....くあっ.....！」
469
470 由乃「で、でも.....乳首、おちんちんの出っ張りに擦れたら.....ひう.....
471 おに一、ちゃんも.....んっ、きもち、よさそ.....んんっ.....ふあ、あ.....んっ！」
472
473 由乃「ずり、ずり、ずり、ずりっ.....！
474 あああ、おちんちん、胸の中で、あばれて.....ふえっ、え、出るって、何が.....！？
475 えと、私、どうしたら.....んぶっ！？」
476
477 由乃「ん、う、う、ううっ.....！ ふう、んっ.....はっ、あっ.....！ んぶぶっ！
478 お、おに、ひゃ.....んう、ぶぶっ.....！ お、ひん、ひ.....んんうっ、
479 おひこま、な.....あぶ、んんっ.....！ いき、でひな.....や、あ、んぐうっ！」
480
481 由乃「んあ、あっ、ぐうっ.....！ や、あ、んご、おっ.....！
482 や、あ、ふく、らんれ.....んうっ、ううっ.....んんんんっ！！」
483
484 (主人公に頭を掴まれて口内射精される由乃)
485
486 由乃「んうう.....っ！ んんっ、ん、ぶ、んぐぐっ.....ぶ、は、あああっ.....！
487 は、あっ.....ひゃっ、んんっ.....！」
488
489 由乃「はああ.....んは.....ぐ、んっ.....けほっ、けほっ.....！
490 お兄、ちゃ.....は、ああっ.....いきなり、なに、するの.....んんっ.....
491 な、んか.....ドロツと、したの.....ううっ.....飲んじゃったん、だけど.....っ」
492
493 由乃「え.....ええ.....この、白いの.....え、これ.....もしかして、精、液.....？
494 あ.....これが、そう、なんだ.....うわあ.....」
495
496 由乃「おちんちん.....小さくなってきてる.....満足、したんだね.....？
497 え.....ううん.....ちよっと、驚いたけど.....大丈夫、だよ.....あは.....っ」
498
499 SE：シャワーの音・強め

500
501 (いたたまれなくなって逃げようとする主人公)
502
503 由乃「きゃっ……！？ え、お兄ちゃん、お風呂は……！？」
504
505 SE：蛇口を締める音
506
507 SE：引き戸を開ける音
508
509 由乃「ああ……行っちゃった……」
510
511 SE：蛇口から水滴が落ちる音
512
513 (5秒くらい沈黙)
514
515 由乃「はああ……まさか、お兄ちゃんとあんなことしちゃうなんて……うう……
516 夢にも思わなかったよお……」
517
518 由乃「でも……お兄ちゃん……私のこと、ちゃんと女の子として、見てくれてるんだ……」
519
520
521
522
523
524
525
526
527
528
529
530
531
532
533
534
535
536
537

538 //トラック3 夜這いえっち

539
540 (自分の部屋で寝ている主人公)
541
542 SE：時計の針の音
543
544 SE：寝返りでシーツが擦れる音

545
546 (10秒ぐらい上記環境音)
547
548 SE : ドアをノックする音
549
550 (正面・中距離)
551 由乃「あの……お兄ちゃん……起きてる？ 中、入ってもいい……？
552 寝てる、のかな……失礼します……」
553
554 SE : ドアの開閉音
555
556 (主人公が起きる)
557
558 (正面・近距離)
559
560 由乃「あ……ごめんね。起こしちゃった……」
561
562 由乃「その……えと……どうしても、今日のうちにお兄ちゃんとお話したいなと思って……
563 だから……」
564
565 (土下座する主人公)
566
567 由乃「へ……えええっ！？ お、お兄ちゃん、なに土下座とかしてるの……！？
568 あの、謝ってほしいとか、そういうのじゃないから……！ 頭上げて……！」
569
570 由乃「はああ、ビックリした……あの、そんなに私、深刻そうに見えたのかな……？
571 勘違いさせてごめんね……？」
572
573 由乃「とりあえず、お兄ちゃんの隣に座ってもいい……？ うん、ありがとね」
574
575 (隣に腰を下ろす由乃)
576
577 (左耳側・近距離)
578 由乃「あのね……お風呂場でのことは、その……私がお兄ちゃんの気も知らずに、
579 一緒にお風呂入ろうとか言い出したのが原因だから……
580 お兄ちゃんは悪くないから、もう気にしないで」
581
582 由乃「……ううん、気にしないでは……嘘。
583 私が話したかったことは、さっきの事にも関係してるから……」
584
585 由乃「えっとね……いろいろ話す前に、まず最初に言うんだけど……
586 私、小さい頃にお兄ちゃんと会った時から、

587 ずっとお兄ちゃんのことが好きだったんだよ？」
588
589 由乃「あはは……やっぱり気付いてなかったんだ。
590 最初は私のこと忘れてたし、多分そうだろうなとは思ってたけど……」
591
592 由乃「まあ……その時の好きは、本気の好きじゃなくて……何というか……
593 憧れはあるけど、自分とお兄ちゃんがそうなるイメージが湧かないというか……
594 そういう、諦めが入った気持ちだったの」
595
596 由乃「でも、さっきお風呂でお兄ちゃんが私に『女の子らしい』って言ってくれたとき、
597 私すごく勇気づけられて……
598 それで、ちゃんと自分の気持ちに向き合ってみようって、思ったんだ」
599
600 SE：シーツの布スレ
601
602 (正面・ 激近)
603 由乃「お兄ちゃん、私……ずっと小さい頃から今まで、お兄ちゃんのことが大好きでした。
604 あの……もし、良かったら……っ、っ……付き合って、ください……っ！」
605
606 (5秒沈黙)
607
608 由乃「うあ、あ……！ す、んっ……ああ、あ……うれ、しい……っ
609 こんなに幸せな気持ち……生まれて、初めて……う、んんっ……」
610
611 由乃「えへ……急に泣いちゃって、ごめんね……もし、振られたらどうしようとか、
612 ほんとは不安でいっぱい……それで、安心したら、我慢できなくて……」
613
614 (主人公が由乃を抱き寄せる)
615
616 (左耳側・ 激近)
617 由乃「ふあっ……んんっ……お兄ちゃん、ありがとう……大好き……
618 お兄ちゃんの胸の中……大きくて、あったかいよ……」
619
620 由乃「あ……お兄ちゃんの胸の音……伝わってくる……
621 こんなにドキドキ、してくれてるんだ……♡」
622
623 由乃「ああ……お兄、ちゃん……は、あっ……わたし……」
624
625 (顔をお互いのほうに向けてキス)
626
627 (正面・ 激近)

628 由乃「んうっ……ちゅっ……ふ、あああっ……！ キス……すごい……
629 ね、お兄ちゃん、もう一回……ん、ふ……んむ、んんうっ……」
630
631 由乃「あ、ふ、んんっ……ちゅっ、ちゅぱ……は、あっ……
632 身体の奥、じわあって、熱くなって……なんか、幸せ……んちゅっ」
633
634 由乃「は、ふ……んぷ、んんっ……ひあっ……おに、ひゃ……ひた……あっ……
635 んふ、んぶ……んあ、んぢゅ……ぢゅ、ぢゅぶ……」
636
637 由乃「ひた、レ口レ口……んは、あ、れう……きもち……
638 えあ……あ、あ、んうう……頭、ピリピリ、きちや……あ、んんんっ……！」
639
640 由乃「ふあっ、あ、ああっ……！ な、に、今の……は、あっ……！
641 身体、びくってなって、うあ……すごく、きもち、よかった……あああ……」
642
643 由乃「え……それって……キスで、エッチな気持ちになったってこと……？
644 う……あ……や、あっ……それ、恥ずかしいよ……っ。
645 そんなところ、お兄ちゃんに見られたなんて……あ、うう……」
646
647 由乃「え、お兄ちゃんも……？ うえっ、あ、えっ、これ……
648 また、おちんちん、おつきくなってる……
649 私とキスして、こんなに興奮したんだ……」
650
651 (ズボンの上からおちんちんをさする由乃)
652
653 由乃「あ、あ……お風呂の時より、もっとおつきくなってる……？
654 直接エッチなことしてないのに、こんなに興奮してくれるなんて……
655 なんか、ちょっと、嬉しいかも……」
656
657 由乃「ね、ねえ……こんなに、なるってことは……その……したいんだよね……？
658 エッチな、こと……や、やっぱり、だよね……
659 もし……いいよって、言ったら……どうする？ ……きゃっ！？」
660
661 SE：シーツの激しい布スレ
662 SE：布団に倒れる音
663
664 (由乃を押し倒す主人公)
665
666 (正面・至近距離)
667 由乃「お、お兄ちゃん、落ち着いて……！
668 あんまり音出したら、お客さんとか、お父さんやお母さんに、バレちゃう……！」

669
670 由乃「は、あっ……い、嫌って、わけじゃなくて……するなら、静かにしよう……？　ね？
671　　私も初めてで、いきなり激しいのは怖いから……
672　　優しく、ゆっくりだったら……すごく、嬉しいかな……？」
673
674 SE：衣類の布スレ
675
676 由乃「ひゃ、あ……人に脱がされるの、すごく、恥ずかし……んんっ……
677　　はあ、はあっ……お兄ちゃん、そんなにエッチしたくて、堪らないんだ……」
678
679 SE：衣類の布スレ
680
681 （お互い全裸になる）
682
683 由乃「あ、だめ……電気は、付けなくて……今裸を見られるのも恥ずかしいし……
684　　おっきいおちんちん見たら、その、怖気ついちゃいそうだから……
685　　ぼんやり見える今ぐらいが、ちょうどいいの……
686　　わがまま言ってごめんね……？」
687
688 由乃「は、あっ……うあっ……熱くて硬いの……私のお股に、当たって……
689　　んっ……ひあっ……あ、んんっ……！
690　　お兄ちゃん、もしかして……入れる場所探してるの……？」
691
692 由乃「ふふっ……そっか、そうなんだ……お兄ちゃんも、初めてなんだ……えへへ……♡
693　　……じゃあ、お兄ちゃん……（クチュ音）ここだよ、ここ……
694　　この穴に、入れればいいと思うよ」
695
696 由乃「う、うんっ……いいよ、きて……あっ、やっぱり、ちょっと待って……！
697　　その、ぎゅって抱きしめながら、入れて、ほしい……っ！」
698
699 （由乃を抱きしめながら挿入）
700
701 （右耳側・激近）
702 由乃「ん、ぐっ……うううっ……あ、ああ……くああっ……んううううっ！！」
703
704 由乃「ひ、ああ……ぐうっ……ふううっ……！　は、あ、あっ……え、へえ……
705　　お兄ちゃんの、入って、来てるの、わかるよお……ぐ、ずっ……」
706
707 由乃「だ、だいじょう、ぶ……んふ、んうう……これ、嬉し、涙、だから……は、ぐっ……
708　　痛いのも、全部、うれしいから……はああっ……抜かないで……続けて……っ！」
709

710 SE : ゆっくりなジュボ音
711
712 (正面・至近距離)
713 由乃「あっ……ああっ……こ、れが……セックス……んんっ……
714 私、お兄ちゃんと……セックス、しちゃってるんだ……はああっ……」
715
716 由乃「お腹の中、おちんちんで押し広げてるの、感じる……はうっ……
717 これ、圧迫感、すごっ……ふは、ああっ………ひあっ！
718 あっ、力入って、お兄ちゃんの……ぎゅって、しちゃったかも……んふ、うっ……
719 痛かったりとか、しなかった……？ その、ビクビクって、してたし……」
720
721 由乃「え、え……逆に、気持ちいいんだ……へえ……
722 おちんちんって、なんか……ちょっと変わってるよね……
723 強くゴシゴシされたり、締め付けられたりするのがいいなんて……んふふっ。
724 わかった。それならお兄ちゃんの反応に合わせて、締めたり緩めたりしてみるね」
725
726 由乃「んあ……あ……はっ……おちんちんの出っ張ったところ……中、擦れて……あんっ……
727 ジンジン、いっぱい、きちゃう……っ」
728
729 由乃「あ、あっ……お兄ちゃんの、優しさ、伝わってくるよお……んんっ……
730 私が苦しくないように……ゆっくり、出し入れしてくれてるの、分かるもん……」
731
732 由乃「お兄ちゃんの、そういう所、好き……すきい……んんうっ……
733 ああ、なんか、お腹の一番奥……きゅうって、ふああ……！
734 すごく、気持ちいいの、溜まって…」
735
736 由乃「ひ、んっ……！ ああっ、お兄ちゃんの、奥っ、ゴツゴツって……は、うっ……
737 深い、ところ……先っぽ、あたって……んひ、いつ、
738 そんな、だめえ……んっ、んっ……もっと、気持ちよく、なっちゃ……んああっ」
739
740 由乃「あ、あ、ああっ……お兄ちゃんの、おちんちん……ぶるぶる、してるっ……
741 はあ、あ……これ、もう……精液、出したくなってるん、だよね……？」
742
743 由乃「んう……いい、よ……そのまま、中、出して……あ、ああっ……
744 あの、熱くて、ドロドロの……お腹の中で……直に感じたい……っ！」
745
746 (ピストン早くなる)
747
748 SE : シーツの布スレ音
749
750 (左耳側・至近距離)

751 由乃「ふああっ、あ、んっ、んんっ……！ おちんちん、早っ……くああっ、
752 おにい、ちゃ、あっ……ひゃ、ううっ……そ、んな、にっ……
753 中で、だしたいん、だ……あ、あ、あああっ！」
754
755 由乃「んあ、あ、んっ……ひゃ、あ、ひああっ……！
756 だ、だめえっ、は、ひっ……こ、声っ、がまん、できなっ……や、ああっ、
757 エッチしてるの、バレちゃ……んんんっ！」
758
759 (正面・激近)
760 由乃「んうっ……んぶっ……ん、う、ぢゅぶ……あふ、はあっ……んんうっ……！
761 ああ、こえ、なら……んちゅ、ちゅ、ぷぷっ……らい、じょーぶ、らけろっ……
762 ぢゅ、んぢゅ、ちゅずずっ……ふはっ、おねがい、ぜったいくちびる、
763 はなさないれ……んむっ、ぢゅぶぶっ」
764
765 由乃「ふあ、はっ……んむうっ……ああ、きしゅ、ひながら、トントン、きもひっ……！
766 んあ、あ、ふ、んひっ、あ、ああっ……！
767 あ、あっ、なんか、おなか、しゅごいの、きへえっ……んぶ、う、んんんっ！」
768
769 由乃「きちや、あ、あああっ、んぶ、ぶ、ぢゅうっ……あ、くるっ、
770 すごくいいの、きちやっ……あああっ！
771 わたひらけ、また、あっ、きもち、よく、なっひゃ……あううっ！」
772
773 由乃「おに、ひゃ、も、いっひよにっ……！ ふたりれ、いっひよにいっ……！
774 あ、あ、あ、あっ、んは、あっ、ふああああっ！」
775
776 由乃「んああっ！ おちんちん、ぶくうって、は、あ、あくっ、んううっ！
777 くるっ？ しゃせーきてるっ？ わらひも、も、げんかいつ……！」
778
779 由乃「きてっ、きてきてきへえっ……おに、ひゃ、あ……ああっ、んあああああああっ！！」
780
781 (中出し絶頂)
782
783 由乃「ひあ……あ、はっ……ふああああっ……！
784 あ、つい、の……んあ……とぶとぶ……れてえ……あ、は……っ」
785
786 由乃「うあ……は、うっ……まだ、ふるえへる……えへ……それだけ、わたしの、中……
787 きもち、よかったんだ……うふ、うれしい……♡」
788
789 由乃「あ……ぶるぶるって、しなくなった……はああ……
790 わあ……おちんちん、お腹の中でふにゃふにゃって、萎んでいってる……

791 興奮、収まったんだ……よかったあ……」
792
793 由乃「わたしも、その……きもち、よかったよ……（抱きしめられる）ひゃっ！」
794
795 （右耳側・激近）
796 由乃「あは……どういたしまして。それと、これから……よろしくね」
797
798
799
800
801
802
803
804
805
806
807
808
809
810
811
812
813
814
815
816
817
818
819
820
821
822
823
824
825
826
827
828
829
830 //トラック4 山の中で野外えっち
831
832 （山の近くにある小川へ向かっている主人公）
833
834 SE：木々のざわめき
835 SE：野鳥の鳴き声
836
837 （少し間をおいて）

838
839 SE：草木をかき分ける音
840 SE：小川の流れる音
841
842 由乃「あれ、お兄ちゃん……？ よくこの場所を思い出せたね。
843 ……ふふっ、ここの景色も昔と全然変わってないでしょ？」
844
845 由乃「お兄ちゃんと水かけして遊んだのがすごく記憶に残っててね。
846 こうして仕事が一段落したときに、よく涼みに来てるんだ」
847
848 由乃「えっ？ ああ……言われてみれば確かに、一人で来ないで
849 お兄ちゃんも誘えばよかったね……あはは……」
850
851 由乃「えと……お、怒らないで聞いてね……？ 実は、昨日の夜の出来事が、
852 まだ夢なんじゃないかって思ってた……その……お兄ちゃんの顔を見ると
853 すごく落ち着かなくて……それで、私……お兄ちゃんのこと、避けてたの……
854 ごめんなさい」
855
856 由乃「ええっ、許さないって……えええっ！？ ほ、本当にごめんなさい……！
857 あの、今までずっと夢だったことが現実になって、それで動転してて……！」
858
859 SE：水を掛ける音
860
861 由乃「ひゃあっ！？ え、ええっ……？
862 ああっ、その顔……もしかして、からかったの……！？
863 む、むううっ……！ ひ、ひどい……本当に振られちゃったかもって焦ったのに……！
864 お兄ちゃんのバカ……！」
865
866 SE：水を掛け合う音
867
868 由乃「ひゃっ……！ ちょっ、お兄ちゃんは反撃してこないでよ……！
869 きゃっ、やあっ……もうっ、やりすぎだから……ひゃ、んんっ……！
870 そっちがその気ならこっちだって……！ えいっ、えいっ！」
871
872 (しばらく水を掛けあう)
873
874 由乃「ふうう……はああ……もう、お兄ちゃんのせいでクタクタだよ……もう……」
875
876 (少し沈黙)
877
878 由乃「ふふっ……あはははっ。お兄ちゃんてば、強引なんだから……」

879 私のこと、元気づけようとしてくれたんだよね？
880 おかげさまで、すごく気が楽になったよ……ありがとね」
881
882 SE：砂利の上を歩く音
883
884 (由乃を抱き寄せる主人公)
885
886 (正面・激近)
887 由乃「ふぁ……んうっ……お兄ちゃんの腕の中、落ち着く……えへへ、
888 本当に私たち、こういう関係になれたんだね……嬉しい……♡
889 ねえ、もうちょっと強くぎゅってしてもいい……？
890 ありがと。じゃあ……ぎゅう～……♡」
891
892 由乃「んふふ……すうっ……お兄ちゃんの匂い……いっぱいするよぉ……♡
893 すん、すん……ずっと、こうしてくっついていたいのかも……んあっ！」
894
895 由乃「あ……もう、お兄ちゃんったら……どうしてまたおちんちん、こんなに硬くしてるの？
896 私のお腹にグリグリって当たってるんだけど……」
897
898 由乃「えっ、下着……？ うわ、こんなに透けてたんだ……ううう。
899 そこは気付かないふりしてよ……
900 そんな目で見られてたなんて分かったら……すごく、恥ずかしいんだから……」
901
902 由乃「お兄ちゃんってさ……実は、すごくエッチだったりする……？
903 男の人って、その……すぐこんなに興奮したりするの……？」
904
905 由乃「うえっ……！？ そ、そっか……うん、それは……すごくよく分かる……
906 私も、お兄ちゃん相手だといつもよりドキドキするし……
907 そんなに私のこと、意識してくれてるんだ……へええ……
908 それは、すごく、嬉しいな……♡」
909
910 SE：衣服を擦る音
911
912 由乃「じゃあ……今ここで、私とセックスしたいんだ……？
913 うわ、即答なんだ……お兄ちゃんのスケベ……」
914
915 由乃「しょうがないなあ……もしこのまま戻って、ペンションの中で
916 我慢できなくなったら大変だし……ここでスッキリしていこっか。
917 濡れた服も乾かさないとだし……よっと……んんっ……」
918
919 SE：衣服の布スレ音

920
921 (二人とも全裸になる)
922
923 (正面・近距離へ)
924 由乃「(ちょっと怒った風に) お兄ちゃん……ジロジロ見すぎ。
925 こんな恰好、もし誰かに見られたら大変なんだから……ほら、早くしよ？」
926
927 由乃「あ、でも……砂利の上に寝そべるのは、痛そうだよね……
928 そうなると、立ちながらするのかな？ どうやってするんだろう……」
929
930 由乃「えっ……木に手をついてお尻を突き出すって……え、ええっ……？
931 やだ……なんかそれ、すごくいやらしい恰好な気がするんだけど……
932 本当にそれが一番入れやすいの……？」
933
934 由乃「ううう……分かったよ……ん……はあ……っ。(木の下へ移動)
935 こ、これで、いい……？」
936
937 (クンニする)
938
939 由乃「んあっ……！ ちょ、お兄ちゃん、何して……ひ、いつ！？
940 や、やあっ……そんなところ、舐めないで……あ、んっ……汚い、から……っ」
941
942 由乃「ううん……濡らしてくれるのは……嬉しい、けどお……ひ、ああ……
943ほんと、すごく、恥ずかし……んんっ……
944 大事なところ、お兄ちゃんに丸見えになってるし……！」
945
946 由乃「やああ……綺麗とか、聞いてない……バカお兄ちゃん……ふっ……
947 興奮も、してない……もう、変なこと言わないで……く、ああ……」
948
949 SE：クチュ音
950
951 由乃「ひあっ……あ、んっ……指、やめっ……はうっ……
952 そんな、わざと音立てるみたいに、グチュグチュって……や、あ……ああっ……
953 いじわる……言う、言うからあ……お兄ちゃんの指……気持ちいいから……
954 これ以上されたら、私……あの、気持ちいいの、きちゃっ……くうっ！
955 は、あ、はああっ……んんんっ！」
956
957 由乃「は、ぐっ……！ は、はあっ……！ はあああ……はあ……んふ、うっ……
958 今の、すごい……うああ……電流みたいなゾクゾク、いっぺんにきて……あふ……
959 こわ、かったあ……ああああ……」
960

961 由乃「いったって、なにが……？ え……今の、ビクンってなるの、イクって言うの……？
962 へえ……知らな、かった……ふ、ああ……
963 でも、このイクの……すごく気持ちよかったけど……
964 なんか、お腹の奥がジンジンして……もどかしい……っ」
965
966 由乃「お兄、ちゃん……んう……はあ……今すぐおちんちん、入れてほしいの……
967 お願い……昨日みたいに、セックスで気持ちよくして……っ！」
968
969 (立ちバックへ)
970
971 由乃「あ、んんっ……ふあ、あ、ぐうっ……はあああっ！
972 ああっ、お兄ちゃんの、進んできてる……くううっ！」
973
974 由乃「昨日と、なんか感覚、ちがっ……んんうっ、
975 背中側が、ゾクゾク、すごい……ふあ、あっ」
976
977 由乃「あああ……んあっ……深いところ、先っぽ当たってる……全部、入ったんだ……
978 んはあ……あ、んっ……！ あ、ああっ……！
979 え、やあっ……もう、動いて……んくっ……
980 お兄ちゃんも、早く……気持ちよく、になりたいんだね……？」
981
982 (音を立てて腰を打ち付ける)
983
984 由乃「お尻、ぶつかって……はあっ……すごい、エッチな音……んんっ……
985 それに、この、格好……動物が交尾、してるみたいだよお……」
986
987 由乃「う、んっ、んんっ……ズポズポ、ずっと、はげしっ……ふうんっ……
988 あああ、なか、いっぱい擦れて……き、きもちっ……
989 お腹、きゅうって……勝手に締まっちゃう……んんんっ」
990
991 由乃「ひああ……！ あ、おちんちん、ブルブルしてる……
992 ああっ、んああ……ぴったりくつついて……お兄ちゃんがよくなってるの、
993 すぐに伝わってくるよお……あ、ひいっ……」
994
995 由乃「私も、また……は、ああっ……気持ちいいの、広がって……
996 イクの、きてるっ……また、いつちやう……く、あ、あああっ……！」
997
998 (木の枝を踏み折る音が聞こえ、人の気配を感じる)
999
1000 由乃「ひっ……！？ これ、足音……！ うそ……人が歩いてきてる……！
1001 ど、どうしよう……！？ お、お兄ちゃん、ストップ……！ 静かにしないと……！」

1002
1003 S E : 土の上を歩く音
1004
1005 由乃「はあっ……はああっ……お願い、早く行って……心臓、どうにかなりそう……
1006 んううっ……！ や、あっ……お腹、勝手に動かないで……は、んぐっ……！
1007 お兄ちゃんの、ぎゅってしたら……んふ……ふううっ……
1008 我慢、できなく、なっちゃ……(グチュ音) ひうんっ！！」
1009
1010 S E : 小さめのピストン音
1011
1012 由乃「や、ええっ……！？ な、んでっ……ぶぐっ、うううっ……！
1013 おに、ちゃっ……あ、ああっ……！ だめだめっ、ほんと何してっ……！
1014 ひぎっ、んんんっ……！ 動いちゃだめえっ……だめ、だめっ……！」
1015
1016 由乃「全然、話、聞いてないっ……くは、ああっ……！
1017 も、だめっ……むりっ……あ、ああっ……！ こえ、出ちゃっ……あ、あんっ……
1018 ひ、は、あ、あああっ……ふああっ……(主人公が手で口を塞ぐ) んむぐっ……！！」
1019
1020 (正面・ 激近)
1021 由乃「んゝううっ……！ ん、む……んぶっ……！
1022 ふうう………！ ……はっ、はああっ……！ ぶはっ、はああ……！」
1023
1024 (足音が去って行く)
1025
1026 由乃「は、ひ……は、あああ……うぐっ……ううううっ……！！
1027 バカっ！ バカバカバカっ！
1028 あと少しでバレちゃうところだったんだよっ！？
1029 ほんと、ありえない……悪戯するにも、ほどがあるよ……バカあっ……！」
1030
1031 由乃「そんな風に謝るなら……はああ……最初から、しないでよ……まったく……
1032 もし次に同じ事したら……お兄ちゃんのこと、
1033 嫌いになっちゃうかもしれないんだから……」
1034
1035 由乃「んんっ……絶対だよ……？ もう意地悪しないって、約束、だからね……？
1036 分かってくれば……いいよ……
1037 それで……もう、動かなくていいの……？」
1038
1039 由乃「は、あっ……だって、こんな風に興奮させられて……止められるわけ、ないもん……
1040 お兄ちゃんのおちんちんだって、ずっと暴れてグリグリしてるし……
1041 それはそれ……これは、これだから……んあっ……！」
1042

1043 由乃「ただ、もうこんなハラハラはしたくないから……なるべく早く、してほしい……」
1044
1045 (ピストン早くなる)
1046
1047 (正面・近距離へ)
1048 由乃「ひあっ、んっ、んんっ！ おく、ごつごつ、すごっ……お、おおっ……！
1049 や、あうっ……へんなこえ、でひゃっ……ん、お、おおっ……！」
1050
1051 由乃「ほんと、にっ、あぐっ、けもの、みたいっ……んううっ！
1052 は、ひ、は、あああ、きもひ、ことひか、かんがえられなく、なっへ……！
1053 はあああっ！」
1054
1055 由乃「んお、ほ、おっ、おおおっ、んほおおっ……！ ああっ、お、にゃ、かつ……
1056 しびれ、へっ……ひゃ、あっ！ きちゃっ、きへっ……！
1057 イクっ、イクイクっ……！ かりやだ、とびゅ……ふ、う、んっ、んんっ！
1058 ふああっ、ああっ、イ、くっ、ああっ……イクううううううっ！！」
1059
1060 (中出し絶頂)
1061
1062 由乃「んはああ……！ あ、ひあっ……う、んうう……！
1063 しゃ、せー……はああ……してりゅ……うは……っ」
1064
1065 由乃「これ……おなか、ポカポカひて……すぎ……あああ……♡
1066 おにーちゃんのせーし、びゅーってかかるの……きもち……ふう、んっ♡」
1067
1068 由乃「あ……はっ……んぐ……あ、んあ……っ！？」
1069
1070 (倒れそうになったヒロインを抱きかかえる主人公)
1071
1072 (正面・激近)
1073 由乃「ご、ごめんね……足……ちから……はっ……入ら、なくて……ふ、う……
1074 早く、帰らないと、だけど……んはあ……すこし、待って……」
1075
1076 由乃「ふえっ……え、お、おんぶって……お、お兄ちゃん、大丈夫……？
1077 あ、えっ……わ、わかった……」
1078
1079 (しゃがんだ主人公におんぶされるヒロイン)
1080
1081 (後ろ側・激近)
1082 由乃「ひゃ、あっ……わあ……すごく、目線が高い……お兄ちゃんから見た景色って、
1083 こんな風なんだ……」

1084
1085 由乃「んふふ……やっぱりお兄ちゃんって、すごいなあ……
1086 何だかんだで、優しいし……はあ……♡
1087 そういう所、すごく好きだよ……ありがとね……んうっ♡」
1088
1089
1090
1091
1092
1093
1094
1095
1096
1097
1098
1099
1100
1101
1102
1103
1104
1105
1106
1107
1108
1109
1110
1111
1112
1113
1114
1115
1116
1117
1118
1119
1120
1121

//トラック5 最終日思いでえっち

1122
1123
1124 (自分の部屋で帰郷の準備をしている主人公)
1125
1126 SE：時計の針の音
1127
1128 SE：荷造りをしている音
1129
1130 (5秒ぐらい上記環境音)

1131
1132 SE：ドアをノックする音
1133
1134 (正面・ 中距離)
1135 由乃「お兄ちゃん、起きてるよね……？ 入るよ？」
1136
1137 SE：ドアの開閉音
1138
1139 (正面・ 近距離)
1140 由乃「あ、やっぱり荷造りしてたんだ……そうだよな……明日になったらお兄ちゃん、
1141 帰っちゃうんだもんね……」
1142
1143 (主人公の隣に歩いてきて腰を下ろす由乃)
1144
1145 (左耳側・ 近距離)
1146 由乃「夏休みってすごく長いと思ってたのに、あっという間だったなあ……
1147 どうだった？ うちのバイト……楽しかった？」
1148
1149 由乃「えへへ……よかった。……私も、すごく楽しかったよ。
1150 一生忘れられない思い出、たくさん出来たし……」
1151
1152 (主人公にもたれかかる由乃)
1153
1154 (左耳側・ 至近距離)
1155 由乃「本当に……お兄ちゃんと恋人同士になるなんて、夢にも思わなかったなあ……
1156 こんな風に手を繋いで寄り添うとか、少し前だったら想像できなかったし」
1157
1158 由乃「ただ……付き合ってみたら、ちょっと幻滅したところはあるけど？
1159 お兄ちゃんてば、二人きりになったらすぐエッチなことするんだもん。
1160 昔は優しくて大人でカッコいいイメージだったけど……
1161 今はスケベで少し意地悪なところもあるって気付いちゃったし」
1162
1163 由乃「ふふっ……事実だから仕方ないよね？
1164 でも、私はそんな所も含めて、お兄ちゃんのことを大好きだよ……ちゅっ♡」
1165
1166 (左耳側・ 激近)
1167 由乃「あはっ……ほんと、すぐおちんちん大きくなっちゃうよね……
1168 私がこの部屋に来た時から、もしかして期待してこうなってたの？
1169 それともキスされて勃起しちゃった……？
1170 いや、お兄ちゃんのことだし、両方かな……？」
1171

1172 由乃「謝らないでいいよ。だって……私もするつもりで来たんだし。
1173 ね……ここ、触って……？」
1174
1175 (手マンでクチュ音が響く)
1176
1177 由乃「ふぁ……今夜はお兄ちゃんとセックスできる、最後の日だから……んうっ……
1178 もう、ずっと……お兄ちゃんが欲しくて堪らないの……っ」
1179
1180 由乃「お願い……今からいっぱい、お別れエッチ、してほしいの……だめ？」
1181
1182 (正面・至近距離)
1183 由乃「んっ……んちゅ……ちやぶ、ちゅむ……えへ……お兄ちゃん、大好き……♡
1184 ちゅっ、ちゅ、ちゅ、ちゅうっ……はふ、んっ……んう、ん、んんっ……！」
1185
1186 由乃「あ……今日は、電気、消さないでいいよ……
1187 お兄ちゃんがずっと覚えていられるように……私のこと全部、
1188 記憶に焼き付けてほしいから……」
1189
1190 SE：衣服を脱がす音
1191 SE：布団に倒れる音
1192
1193 (主人公が由乃を押し倒す)
1194
1195 由乃「ひゃ、あんっ……♡ お兄ちゃんてば、本気になりすぎだよ……ああ、んっ……♡
1196 すごい鼻息荒くして……そんなに私の裸、見たかったんだ……？」
1197
1198 由乃「は、あっ……おっぱいグニグニ揉まれるの、気持ちいい……んっ……
1199 お兄ちゃんっていつも最初はおっぱいから触るもんね……？」
1200
1201 由乃「やあっ……そんな、じっくり見ながら、揉むんだ……ひう……
1202 いつもより、なんか、ピリピリってして……はああ……感じちゃう……」
1203
1204 由乃「んひっ……！ あ、あっ……乳首、触られるの、くるっ……んんっ……
1205 あ、は……ああ……ううっ……お、お兄ちゃん……その……もっと強く弄って……
1206 そんな、撫でるみたいにされたら、もどかし……ふうんっ」
1207
1208 由乃「うえっ……？ や、あっ……切なくなってる顔、見たいなんて……は、ふ、うっ……
1209 お兄ちゃんの、変態……ああ……あっ……きよ、今日だけ、特別、だからね……」
1210
1211 由乃「あ……ひ、あ……んうっ……身体の、奥……じりじり、するう……はあああっ……
1212 おっぱいだけしか、触られてないのに……おまんこが、疼くよお……！」

1213
1214 由乃「は.....あ.....あっ.....ふああっ.....！ あ、それ、いいっ.....！
1215 おっぱい吸われるの、快感、すごっ.....んんっ！
1216 もっと.....もっと吸って.....！」
1217
1218 (身体を丸めて主人公の頭を抱く形に)
1219
1220 (右耳・ 激近)
1221 由乃「ああ、きもちっ.....きもちっ.....く、ふっ.....！
1222 きてるっ.....ゾクゾク、きてっ.....ふ、んっ.....！ きちゃ、あ、ああっ.....！
1223 イクっ.....い、く.....ううんっ.....！！！」
1224
1225 (乳首で軽イキ)
1226
1227 由乃「ふはっ、あ、あっ.....あああああ.....！」
1228
1229 由乃「ああ.....んくっ.....はああ.....おっぱいだけで.....いったの初めて.....
1230 すごい、先っぽ、敏感になって.....んふっ.....
1231 空気に当たってるだけで、感じちゃう.....ふうう.....」
1232
1233 (主人公が身体を起こす)
1234
1235 (正面・ 至近距離に戻る)
1236 由乃「は、あ.....うわ.....お兄ちゃんのおちんちん.....
1237 触ってないのに、糸引きちゃってる.....
1238 私のイクところ見て.....そんなに興奮しちゃったんだ.....あああ.....」
1239
1240 由乃「ねえ.....今度は.....そのガチガチのおちんちんで.....イカせてくれるんだよね.....？
1241 私のおまんこも、おしるずっと止まらなくて.....もう我慢、できないよおお.....」
1242
1243 S E : ベッドの軋む音
1244 S E : クチュ音
1245
1246 (おまんこにおちんちんをあてがい、擦り付ける。クチュ音5~10秒ぐらい)
1247
1248 由乃「あああ.....♡ おちんちん、くる.....♡ 早く、ほしい.....♡
1249 うくっ.....あ、あっ.....！ んあ、ああああっ！！！」
1250
1251 由乃「ふ、ぐうっ.....ん、ふ、うううっ.....！
1252 お兄ちゃんのが、ずぶって.....ああ、一気に、奥まで.....は、ひっ.....！」
1253

1254 由乃「あ……はあっ……もう、こんなにあっさり、入るようになった……♡
1255 今までいっぱいエッチして、お兄ちゃんのおちんちんがピッタリ入るように、
1256 私のおまんこ、一生懸命広げてたもんね……♡」
1257
1258 由乃「そのおかげで……お兄ちゃんのおちんちん入ったら……ああっ……
1259 子宮が勝手にきゅうきゅう吸いついちゃうもん……ん、ふっ……」
1260
1261 由乃「ああ、おちんちんと子宮……キスしてるの、感じる……あ、うっ……
1262 お兄ちゃんの、早く白いの飲ませたそうにビクビクしてるよお……♡」
1263
1264 由乃「はあっ……あ、あんっ……おまんこの中、全部擦れて……き、きもちっ……！
1265 これ、きもちくて……はああっ……ずっとこのまま、エッチしたい……♡」
1266
1267 由乃「んぐっ、ああっ……！ う、そ……ぐうっ……
1268 お兄ちゃんの、もっと、大きく……ひ、は、ああっ……
1269 あぐっ……おなかつ、持ってかれ……んんんっ！」
1270
1271 由乃「おに、ちゃんも……今までで、一番興奮してくれてるんだ……は、あ、あっ……
1272 うれしい……うれしいよお……♡
1273 私でもっと感じて……私にお兄ちゃんの思い出、刻み込んで……！」
1274
1275 (ピストン早くなる)
1276
1277 (右耳側・至近距離)
1278 由乃「は、あ、ん、んっ……！ はあっ、ああっ、ふあああっ、
1279 お、なかつ……ぐうっ、つぶれ、る……は、ひっ……んうゝううっ！」
1280
1281 由乃「ああっ、んんっ、んんんっ！
1282 ま、た、おちん、ちん、ふく、ら、んれっ……はああっ……
1283 だそおと、してりゅ……せーし、しきゅーにいい……！」
1284
1285 由乃「だひて……だひへ、だひへえっ……！ おに、ひや、の……のまひえてっ……！
1286 は、はやくっ……ひや、ううっ！ ああ、らめっ、あたま、まつひろ……ふあああっ、
1287 これらめっ！ ひ、ひんじゃ……あああああっ！！」
1288
1289 由乃「あんっ、あんっ！ あっあっ、ああっ、くあ、ああああっ！！
1290 おに、ひやっ……お、にっ……ひや、あああっ……！」
1291
1292 由乃「イきゅっ……！ もお、イきゅ！ いひばん、ふかい、とこれっ……らひへっ……！
1293 は、あ、く、あああっ……！ ああっ、んんっ……ふあああああああっ！！！」
1294

1295 (中出し絶頂)

1296

1297 (右耳側・激近)

1298 由乃「はああ.....あ、あっ.....んんっ.....！

1299 ふ、あっ.....し、きゅー.....なか.....あ.....あ、つい.....！」

1300

1301 由乃「ああ、あああ.....いりぐひ.....ぴったり、くっちゅい、へ.....はひっ.....

1302 なんども.....はねへる.....ああっ」

1303

1304 由乃「う、あ.....しゅご、おっ.....んんっ.....まら、れて.....うああ.....

1305 おなか.....せーえきで.....ふくらまへ、られへ.....ふうう.....」

1306

1307 由乃「あ.....あ.....あっ.....ああ.....うごがなく、なっひや.....あっ.....

1308 は.....はあ.....んう、はああ.....しゅご、おっ.....おなか、たぶたぶ.....

1309 もお、はいら、ないよお.....」

1310

1311 由乃「うふ.....♡ こんな、しゅごい、せつくす、おぼえたら.....

1312 またしたく、なっちゃうね.....？」

1313

1314 由乃「だから.....はああ.....また、来年も.....うちに、きてね.....？」

1315 ぜったい、だよ.....？ んっ.....んちゅ.....んうう.....

1316 これで、約束、だからね.....んふふっ♡」

1317 //おまけトラック 帰りのバス停、雨音に隠れるように抜き

1318

1319 (雨が降る中、バスの待合所で到着を待つ主人公と由乃)

1320

1321 S E : 強い雨の音

1322

1323 (5 秒くらい沈黙)

1324

1325 (左耳側・近距離)

1326 由乃「すごい雨だね.....これ、バス来るかな.....？」

1327 ここって山奥だから、悪天候の時は運休になることがあるんだよね.....」

1328

1329 由乃「だ、大丈夫だよお兄ちゃん！ 今のはもしもの話だから、心配しないで！」

1330

1331 由乃「でも、もう少し待ってこなかったら一回戻って、

1332 お父さんたちに確認してもらおうか.....？」

1333 あ、もちろん帰りが伸びたら、その分うちに泊っていいからねっ？

1334 私もお兄ちゃんともっと一緒にいたかったし！」

1335

1336 由乃「は……ええっ？ もう……お兄ちゃんてば、エッチなこと考えすぎだよ……
1337 一緒にいたいって、そういう意味で言ったんじゃないから……」
1338
1339 由乃「もうすぐ帰らないといけないのに、おちんちんそんなに膨らませて……
1340 そんな状態でバスに乗ったら、運転手さんに通報されちゃうよ……
1341 しょうがないなあ……もう……」
1342
1343 (主人公のズボンのチャックを下げて、おちんちんを取り出す)
1344
1345 (正面・至近距離)
1346 由乃「昨日あんなに激しいセックスしたのに、まだ精液出たくてうずうずしてるんだ……
1347 お兄ちゃんってさ……絶倫っていうやつだね、絶対」
1348
1349 由乃「ひあっ……もう、お尻触らないで……バカお兄ちゃん……
1350 こんな丸見えの場所でセックスなんか、出来るわけないでしょ……
1351 上に乗っかってとか、バレバレすぎて絶対にしないからね……？」
1352
1353 由乃「だから……んあ……ん、ぶ……はあ……ぺろ……お口で、してあげるから……
1354 それで、満足してよ……んちゅっ」
1355
1356 由乃「あぁっ、ちろ……ジメジメしてるから、汗かいてるね……はふ……
1357 ちょっと、しょっぱい……」
1358
1359 由乃「でも、すごくお兄ちゃんの匂い、濃くなってて……うはあ……♡
1360 癖に、なっちゃうかも……ん、ごくっ……ふぁあっ♡」
1361
1362 由乃「んふ……今の私、色っぽかったんだ……？ あはは、やっぱり♡
1363 言葉で言われなくても、おちんちんのビクビクでお兄ちゃんが何を思ってるか、
1364 大体わかるようになったもんね……ふふふっ♡」
1365
1366 由乃「さてさて、次のビクビクは……なるほど……
1367 早く舐めてほしいって言ってるね……わかったよ♡」
1368
1369 由乃「まずは、竿を下から上に……んべええ……ちりゅ……
1370 徐々に、徐々に……亀頭の方まで、這わせて行って……れろ、れろろお……」
1371
1372 由乃「は、あ……亀頭まで来たら、ぐる～って、
1373 満遍なく舐めあげられるのが、好きだもんね……？
1374 えああ……んふ、んう……は、あ、れうう……」
1375
1376 由乃「特に、亀頭の裏側の出っ張りとか、筋の所を念入りに……れろ、れろれろ……」

1377 あはっ、ビクビクすっごい.....♡ ここペロペロされるの、大好きだもんね.....♡」
1378
1379 由乃「握ってる手から飛び出しそうなくらい暴れて.....はふっ.....んちゅ.....ちゅ、りゅ.....
1380 れろれろれろお.....ああっ、おつゅ、出始めたね.....♡」
1381
1382 由乃「これ、好き.....んうっ、ちゅむ.....あふ.....ちゅぶ、ちゅる.....
1383 少し、独特だけど.....お兄ちゃんの味って、感じがして.....んっ.....んんっ.....
1384 ふああっ.....大好き♡」
1385
1386 由乃「れう.....ちゅば.....あ、れるれるれる.....いっぱい、出していいよ.....
1387 おつゅも、精液も、全部出して.....はぶっ.....んう、んうう.....
1388 すっきりひて、かえっへね.....？」
1389
1390 由乃「ぢゅ、る.....ぢゅぶ、ぢゅぶ.....ん、ふ、んぶ.....ぐぶっ.....
1391 は、あ、んぢゅ.....ぢゅるぢゅる.....んんっ、んんう.....あ、ん.....ごくっ」
1392
1393 由乃「はああっ.....ぢゅりゅ、ぢゅ.....ぶは、あ、先っぽ、膨らんできた.....ああっ、
1394 ずぶ、ずぶ.....ぢゅ、ず.....もお、ふぐ.....んんんっ.....れそお、なんらね.....？」
1395
1396 由乃「ぢゅ、ぶ、ぢゅる.....んふ、んっ、んっ.....は、う、んぶっ.....
1397 らす、ときは.....あっ、ぢゅっ.....ぢゅぶ、ぶずっ、ぶぢゅ.....いつへ.....っ！」
1398
1399 由乃「あ、う、んっ、んっ.....ぢゅ、ぶ、ぐぶ、ぐぶっ、ぢゅるるっ.....！
1400 ああ、におひ、こく、なっへる.....♡ ぢゅば、れりゅ、れるるっ、んぢゅ.....
1401 イく.....イキそ.....？ わかつひや、あっ.....んううっ、ぢゅ、ぶぶぶっ！」
1402
1403 由乃「ぶぢゅ、ぢゅ、ぢゅるっ、ぢゅぞぞっ.....！ ず、ぶ、ずぶ、ぶぢゅるっ.....！
1404 はふ、う、えうえう、ずずずっ.....！ んあっ、お、おっ.....んぐっ.....！
1405 ぐぶ、ん、ふううっ、んんっ、んんんっ！！」
1406
1407 (口内射精)
1408
1409 由乃「ふぶっ.....！ んうっ、んん.....！ あ、ふ、んぐっ.....んう、んお、おおっ.....！」
1410
1411 由乃「んん.....んずっ.....あ、んっ.....ご、きゅっ.....ごきゅっ.....」
1412
1413 (正面・激近)
1414 由乃「んう.....んっ.....ふはっ、はああ.....！
1415 んえ、ああー.....れんぶ.....のんらよ.....♡ んふ.....ああ、んむっ.....んくっ.....」
1416
1417 (左耳側・激近)

1418 由乃「は、ふ……お兄ちゃんの精液、おいしかったよ……ごちそうさま♡」
1419
1420 由乃「もう……お兄ちゃんてば、びゅっびゅしたのにどうしてこんなに
1421 おちんちん硬いままなの……？ほんと、性欲オバケだね……？」
1422
1423 由乃「やっぱり……おまんこじゃないと、満足できない……？
1424 まったく……しょうがないおちんちんだなあ、もう……♡
1425 どうしてもって言うなら一回だけ……」
1426
1427 S E：車が濡れた道路を走ってくる音
1428 S E：バスの停車音
1429
1430 (バスが遠方から近づいてくる)
1431
1432 由乃「あっ……もうバス来ちゃったね。
1433 残念だけど……ここでおしまいにしょ？
1434 ほら、早くおちんちんズボンの中にしまわないと大変なことになっちゃう」
1435
1436 (左耳側・激近)
1437
1438 由乃「ええ？ バスの中で……？ 本当に何言ってるの、お兄ちゃん。
1439 そんなこと、出来るわけないでしょ？」
1440
1441 由乃「この続きは……来年まで、おあずけだよ♡
1442 ふふっ……絶対に来たくなかったんじゃないかな……？
1443 えへへ、待ってるからね……んちゅっ」